

月影



第56号

平成二十九年五月十五日発行
浄土宗西山禅林寺派
常林院

咲くも無心
散るも無心
花は嘆かず
今を生きる

坂村真民



咲く縁が集まって咲き
散る縁が集まって散る花
同じように
縁によって生まれ
縁によって命が終わる人間
でも
無心になれない私

仏事作法

しようこう

お焼香

お焼香とは

葬儀や法事に参列するとお焼香をします。このお焼香という作法はお釈迦さまの時代には、すでにおこなわれていたそうです。

お焼香の香りは、人の身と心を清らかにします。また部屋の隅々までいき渡る様子が、すべての人々にいき渡る仏さまの慈悲に似ています。良い香りを供養の心と共に、仏さまや亡き人に届ける気持ちでお焼香をしましょう。

香木の色々

香木には伽羅、沈香、白檀などがあります。木の種類によって香りが違います。また香木の形も、小さく割ったものや細かく刻んだものがあります。



白檀（左）と沈香（右）

炭

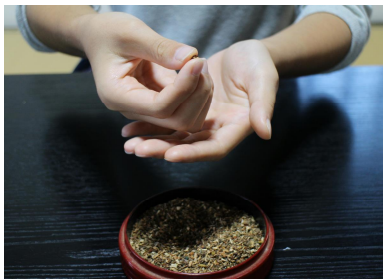
炭は様々な大きさがあります。法要の時間によって使う炭の大きさを決めます。小さい炭がなければ、半分に分けて使います。

お焼香の作法

① 合掌した後、親指・人差し指・中指の三本指で抹香をつまむ。



② 抹香をつまんだ手は、他方の手をそえながら少し上へ挙げ、軽く会釈をする。



③ 香炉に抹香をくべる。



④ これを三回繰り返す。
⑤ もう一度合掌し、お焼香を終える。

お焼香の回数

お焼香の回数は、基本は三回ですが、お焼香をする人数が大勢の場合には二回、または一回など、状況に応じて変えます。

回数を定めている宗派もありますが、供養の心を持って、お焼香することが大切です。

仙事の 質問帖

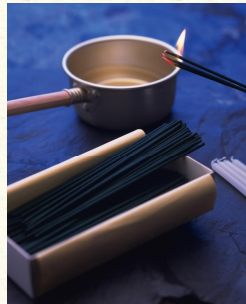


問「法事を勤める時。命日より遅れて勤めることはよくないことでしょうか？」

答 命日は、故人にとってご家族にとっても大切な日です。できれば、命日、または命日より前に勤めることが良いのですが、どうしても都合がつかない場合は、遅れて勤めても構いません。日にちを優先するのとよりも、家族・親族が一人でも多く集い、皆でお参りすることの方が、故人にとっても喜ばしいことだと思います。

質問募集

仙事のことから分からないこと等、気軽に質問して下さい。



FAX 075-691-9658
メール info@jo-rin-in.jp まで

永観堂だより

御忌会勤まる

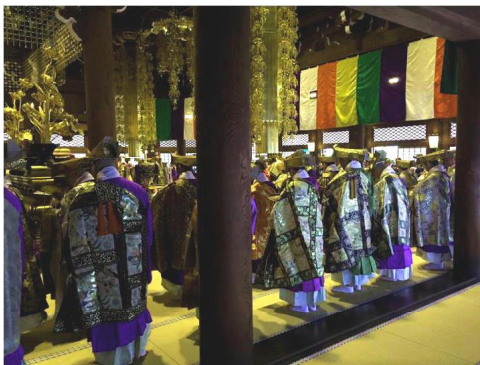
毎年、四月二十二日から二十五日までの四日間、本山永観堂では、浄土宗の宗祖である法然上人の遺徳をしのぶ「御忌会」の法要が大

殿で勤められます。今年も、北は北海道から、南は山口県の寺院が出仕し、大勢の檀信徒の方が見守る中、中西管長猊下をお導師に、盛大に勤められました。

御忌会では、出仕する寺院は、正装である莊嚴衣を身に着け、声明を称えながら入堂します。法要中は、

法然上人の遺徳を讃える疏を読み上げたり、仏さまを讃える声明を称えたりします。

法然上人がご入滅されても、お念仏の教えは脈々と受け継がれ、今年で八百六回を迎えた御忌会も、僧侶と檀信徒がお念仏で一つになり、無障礙に勤めることができました。



大殿に入堂する寺院

お知らせ

一昨年の山門改築にあたり、ホームページの写真を旧山門から新しい山門に変更しました。

また、ホームページを開設してから六年が経ったということもあり、一部内容を変更しました。



京都 浄土宗西山禅林寺派
紫雲山
常林院

常林院ホームページ

変更の内容は「今月の言葉」という項目を増やしました。

「今月の言葉」とは、当寺の掲示板上に、毎月 の言葉を掲示している ものです。葉書サイズの解説書も掲示板上に置 いています。同じものを ホームページからダウンロードできる ようにしましたので、良ければ「常林院」で検索 してみてください。



門前の伝導掲示板

雑記鈔

く人生のあいいうえお

▽『人生のあいいうえお』
という言葉があります。
人生で大切なものを
「あいいうえお作文」
にしたものです▽あ
「愛」、い「命」、う
「運」、え「縁」、お
「恩」▽「愛」愛情・
最愛・愛犬など、愛を
使った言葉がたくさん
あるように、生きてい
く上で「愛」はなくて
はならないものです。
それは、人間だけに限
らず動植物も同じです
▽「命」お釈迦様は
〈天上天下唯我独尊〉と、
自分の命を大切にす
ること、同じように他人
の命も大切にすること

を説かれました▽「運」
〈宿命〉は変えられませ
んが、〈運命〉は願いの行
動し続ければ変えるこ
とが可能です▽「縁」
すべてのものは見えな
い縁によって繋がって
いる、ということに気
づくことが大切です▽
「恩」恩返しをしたい
時、相手がすでにこの
世にいない時は、代わ
りに子や孫、または地域
や社会に対して、その恩
を送っていく「恩送り」
をしましょう▽この
「人生のあいいうえお」
を大切にしながら生活
することは、豊かな人
生を送ることにつなが
ります。

